

サラリーマン世帯の主婦 500 名に聞く「2007 年冬のボーナスと家計の実態調査」

「増えた」(36.8%)が「減った」(24.2%)の約 1.5 倍

平均手取金額は 66.6 万円(昨冬より 2.7 万円減)

主婦の“へそくり”(夫に内緒の資産)平均金額は 245 万円

臨時ボーナスをあげたい人は、「ハニカミ王子」「小島よしお」「東国原英夫」

損保ジャパン DIY 生命保険株式会社(代表取締役社長:塩田 修三)では、全国の 20~50 代のサラリーマン世帯の主婦 500 名(各年代毎 125 名 平均年齢 39.6 歳)を対象に、2007 年冬のボーナスと家計の実態をテーマとしたアンケートを、2007 年 12 月 7 日(金)~10 日(月)に実施いたしました。

2007 年冬のボーナス平均手取金額は、2006 年冬より 2.7 万円減少しています。サブプライムローン、原油価格高騰などの影響により、6 割弱の主婦が今後の家計の見通しを「厳しい」と考えており、“我が家のやりくり”を見直す機運が高まってきているようです。また、半数以上が「株式」、「投資信託」などの資産運用をやっている(やってみたい)ことから、家計の中で資産運用が重視されてきていることが窺えます。

「へそくり(夫に内緒の資産)」に関しては 4 割を超える主婦が有しており、“いざという時の備え”に加え、“自分自身のため”という目的も多く見られました。

第 15 回損保ジャパン DIY 生命アンケート「冬のボーナスと家計の実態調査」の結果概要は、以下のとおりです。

「2007 年冬のボーナスと家計の実態調査」の主な結果

《2007 年冬のボーナス》

冬のボーナス「増えた」は 36.8%、「減った」は 24.2%。平均手取金額は 66.6 万円。

<参考> 2006 年冬:「増えた」40.8%、「減った」21.6%。平均手取金額:69.3 万円。

この冬、臨時ボーナスをあげたい人は、「石川遼」、「小島よしお」、「東国原英夫」。

主婦としての働きに自分がもらうボーナス妥当平均金額は、22.6 万円。

夫の家庭での働きに対してあげるボーナス妥当平均金額は、22.7 万円。

ボーナスの使い道は、どの年代でも「家族で仲良く相談、妻がGO」が最も多い。

ボーナス内から夫に小遣いを渡す主婦は、全体の 50.6%。平均小遣い額は、7.4 万円。

主婦がしてみたい“プチ贅沢”No.1 は、エステ(21.6%)。平均使用金額は、4 万 9,659 円。

《家計の実態》

家計の現状は、“苦しい”(56.8%)、“楽である”(43.2%)。

資産運用を“やってみたい”・“現在やっている”は、50.2%と半数を占める。

世代別では、50 代の主婦(59.2%)が 6 割弱と最も運用意欲が高い。

家計簿をつけている主婦は 50.4%とほぼ半数。

形態は「パソコン」(38.9%)が最も多いが、“冊子(ペーパー形式)”と“デジタル機器”で比較すると、冊子が上回る。

ふだん財布の中に入っているお金の平均金額は、1 万 6,592 円。

世代別では、50 代のみ 2 万 1,172 円と 2 万円を超える。

夫に内緒の資産(へそくり)を持っている主婦は、43.0%。へそくり平均金額は 245 万円。

夫に働いてもらいたい平均年齢は、64.7 歳。

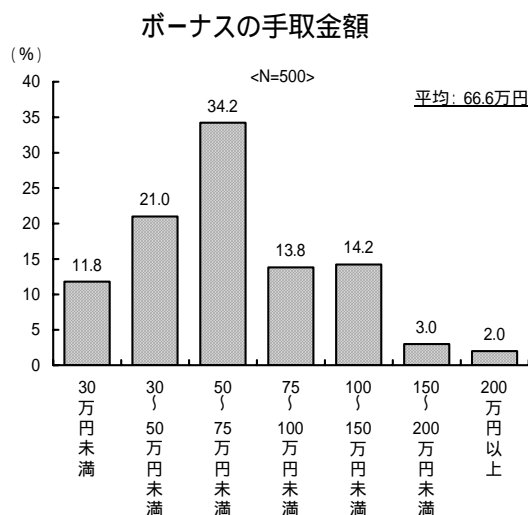
2007年冬のボーナス

“増えた”(36.8%)と「±0円(昨年と同額)」(34.6%)がそれぞれ3割強を占め、“減った”(24.2%)が2割強。増減平均は+1.0万円と微増。ボーナス平均手取金額は、66.6万円。増減平均、平均手取金額ともに2006年冬より減少。

サブプライムローン問題や原油価格高騰などで、ボーナスへの影響が懸念される中、サラリーマン世帯の主婦に夫が受け取った冬のボーナス手取金額を伺いました。

最も多いのは、「50～75万円未満」(34.2%)で、次いで、「30～50万円未満」(21.0%)、「100～150万円未満」(14.2%)、「75～100万円未満」(13.8%)の順となっています。

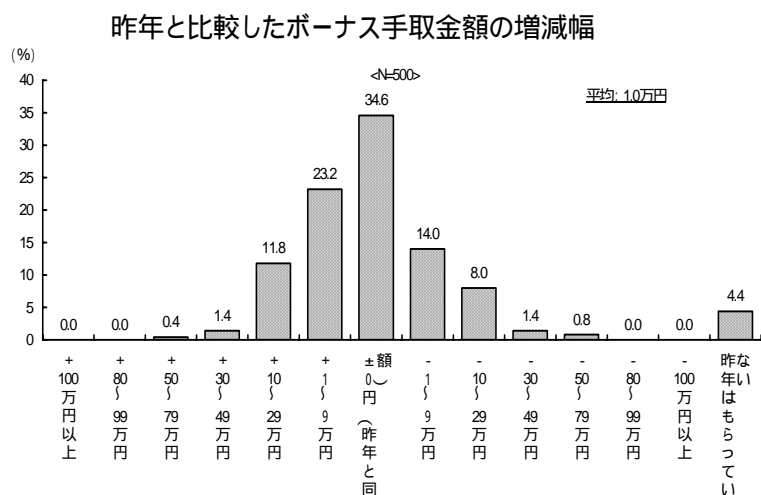
平均手取金額は66.6万円となり、昨冬の平均手取金額である69.3万円より、2.7万円減少しています。



また、今冬のボーナス手取金額に関して、昨冬と比較した増減を伺いました。

“増えた”(36.8%)と「±0円(昨年と同額)」(34.6%)が、3割強とほぼ同じ割合となっており、“減った”(24.2%)が2割強という結果となっています。

また、“増えた”という人では、「+1～9万円」(23.2%)が最も多くなっています。平均は+1.0万円と微増していますが、昨冬の平均である+2.1万円に比べ伸びは鈍化しています。



さらに、今冬のボーナスの使い道について伺ったところ、最も多いのは「預貯金など貯蓄」(60.6%)で、昨冬よりも増加しています。以下、「ローン、クレジットの支払い」(32.2%)、「生活費の補填」(30.6%)の順となっており、“消費志向”より“生活防衛志向”が目立つ結果となっています。

臨時ボーナスをあげたいと思う人

この冬臨時ボーナスをあげたい人は、スポーツ界では「石川遼」(54件)、「星野仙一」(50件)、「ダルビッシュ有」(30件)、芸能界では「小島よしお」(119件)、それ以外の分野は政界からの「東国原英夫」(52件)がトップ。

今年これまでに大いに活躍している人やグループで、臨時ボーナスをあげたいと思う人を『スポーツ界』、『芸能界』、『それ以外の分野』の3分野から自由にあげていただきました。

スポーツ界では、「ハニカミ王子」こと「石川遼」(54件)がトップとなっています。また、トップ10に「星野仙一」(50件)、「ダルビッシュ有」(30件)、「谷亮子」(14件)がランクインしており、夏に開催される北京オリンピックでの活躍を期待していることが窺えます。

芸能界では、「小島よしお」(119件)が断トツのトップ。2位以下には、「小栗旬」(12件)、「新垣結衣」(7件)、「沢尻エリカ」(7件)、「IKKO」(7件)がランクインしています。

それ以外の分野で最も多かったのは、政界からの「東国原英夫」(52件)。また、「自分」(6件)や「夫」(4件)など、身近な人にあげたいという回答も目立ちました。

臨時ボーナスをあげたい人、トップ10

順位	スポーツ界	件数	順位	芸能界	件数	順位	それ以外の分野	件数
1	石川遼	54	1	小島よしお	119	1	東国原英夫	52
2	星野仙一	50	2	小栗旬	12	2	安倍晋三	8
3	ダルビッシュ有	30	3	新垣結衣	7	3	自分	6
4	浅田真央	20	"	沢尻エリカ	7	4	舩添要一	5
5	イチロー	16	"	IKKO	7	5	小沢一郎	4
6	谷亮子	14	6	田村裕(麒麟)	6	"	夫	4
7	松坂大輔	13	7	SMAP	5	7	福田康夫	3
8	内藤大助	11	8	にしおかすみこ	4	8	長妻昭	2
9	古田敦也	6	"	陣内智則	4	複数回答は上記8人のみ		
"	斎藤祐樹	6	10	ギャル曽根	3			
			"	コブクロ	3			
			"	ルー大柴	3			
			"	森光子	3			
			"	明石家さんま	3			

主婦としての働きに自分がもらうボーナス額

最も多いのが「10～20万円未満」(29.0%)の3割弱で、次いで「20～30万円未満」(15.8%)、「30～40万円未満」(14.4%)。平均は22.6万円。

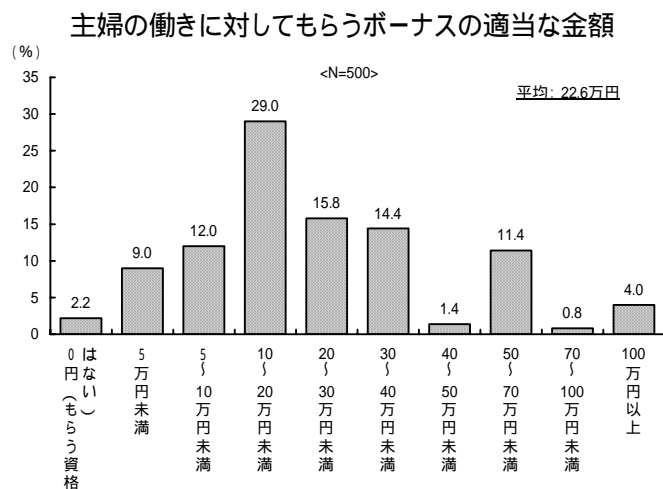
自分自身の主婦としての働きに対してボーナスをもらうとしたら、その金額はいくらぐらいがふさわしいと思うか、具体的な金額をあげていただきました。

最も多いのは「10～20万円未満」(29.0%)で、以下「20～30万円未満」(15.8%)、「30～40万円未満」(14.4%)、「5～10万円未満」(12.0%)、「50～70万円未満」(11.4%)と続いています。また、割合こそ低いものの、「100万円以上」が4.0%ある一方で、「0円(もらう資格がない)」も2.2%あり、主婦の仕事ぶりに対する自己評価は実に幅広いと言えます。平均は22.6万円で、最高金額は200万円です。

主婦の働きに対してもらうボーナスの妥当平均金額は、今回のボーナス平均手取金額の約3分の1に当たり、昨年より減少する結果となりました。

平均手取金額減少の影響か、自身のボーナス査定も厳しくなっているのでしょうか。

<参考> 2006年冬:平均手取金額69.3万円、主婦としての働きに自分がもらう妥当平均金額:27.9万円



夫の家庭での働きに対してあげるボーナス額

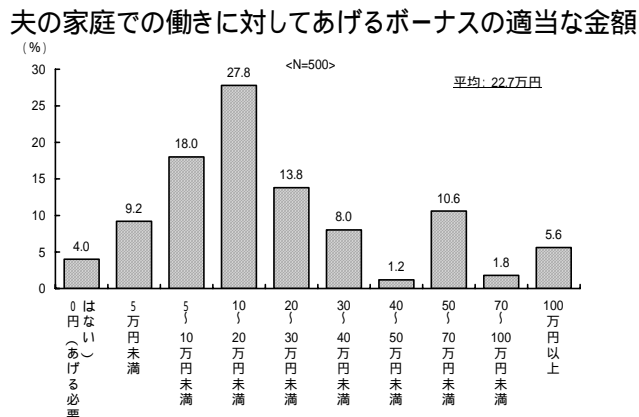
夫の家庭での働きに対してあげるボーナスは、「10～20万円未満」(27.8%)が最も多く、次いで「5～10万円未満」(18.0%)、「20～30万円未満」(13.8%)。平均は22.7万円。主婦は、自分自身の働きと家庭での夫の働きを同じくらいと考えていることが窺える。

ご主人の家庭での働きに対してボーナスをあげるとしたら、その金額はいくらぐらいがふさわしいと考えているのかを伺いました。

「10～20万円未満」(27.8%)が最も多く、以下「5～10万円未満」(18.0%)、「20～30万円未満」(13.8%)、「50～70万円未満」(10.6%)と続いています。平均は22.7万で、最高金額は300万円です。

主婦としての働きに対して自分がもらうボーナス平均金額と価格帯分布についてさほど顕著な違いが見られず、ご主人の家庭での評価も様々なようです。

主婦は、自分自身の働きとご主人の家庭での働きをほぼ同じと考えているようです。



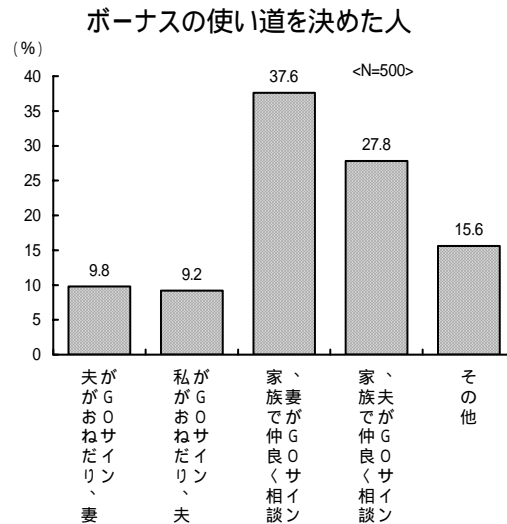
ボーナスの使い道を決めた人

「家族で仲良く相談、妻がGOサイン」(37.6%)が3割強と最も多く、次いで「家族で仲良く相談、夫がGOサイン」(27.8%)。

また、この冬のボーナスの使い道を決めた人は誰か伺いました。

最も多いのは「家族で仲良く相談、妻がGOサイン」(37.6%)で3割強を占めています。次いで「家族で仲良く相談、夫がGOサイン」(27.8%)が多く、この2つをあわせると「家族で仲良く相談」が(65.4%)と全体の約3分の2を占める結果となっています。

「夫」と「妻」の決定権を比べると、いずれの場合も「妻」が「夫」を上回っており、財布のひもは妻が握っているという家庭が多いようです。



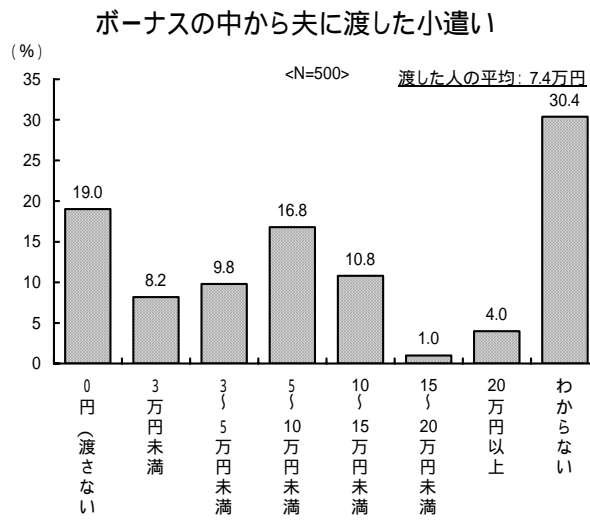
ボーナス内から夫に渡す小遣い

ボーナスの中から夫に渡した小遣いに関して、「渡した」(50.6%)という人は全体のほぼ半数で、「渡さない」(19.0%)は2割弱。渡した額は「5～10万円未満」(16.8%)が最も多く、平均は7.4万円。

この冬のボーナスの中から、ご主人に小遣いとしていくら渡した(渡そうと思っている)のか、その金額を伺いました。

「渡した」(50.6%)という人は全体のほぼ半数で、「渡さない」(19.0%)は2割弱となっています。なお、「わからない」(30.4%)は約3割です。

また、「渡す(渡す予定)」と回答した主婦がご主人に渡した金額を見ると、「5～10万円未満」(16.8%)が最も多く、以下「10～15万円未満」(10.8%)、「3～5万円未満」(9.8%)、「3万円未満」(8.2%)の順となっています。渡したという人の平均は7.4万円で、平均手取金額の約1割がご主人の小遣いとなっているようです。



主婦がしてみたい“プチ贅沢”

もし余裕があれば自分だけでしてみたい“プチ贅沢”は、「エステ」(21.6%)がトップ。次いで、「ランチ」(15.8%)、「旅行」(9.6%)、「外食」「マッサージ」(各 5.6%)、「ケーキ、スイーツ」(4.4%)と続く。プチ贅沢にかきたい金額は、「1～2万円未満」(20.6%)が約2割と最も多く、平均は4万9,659円。

もし余裕があれば自分だけでこっそりと、どんな“主婦のささやかな贅沢”をしてみたいか伺いました。最も多いのは「エステ」(21.6%)で、以下「ランチ」(15.8%)、「旅行」(9.6%)、「外食」「マッサージ」(各 5.6%)などが続いています。

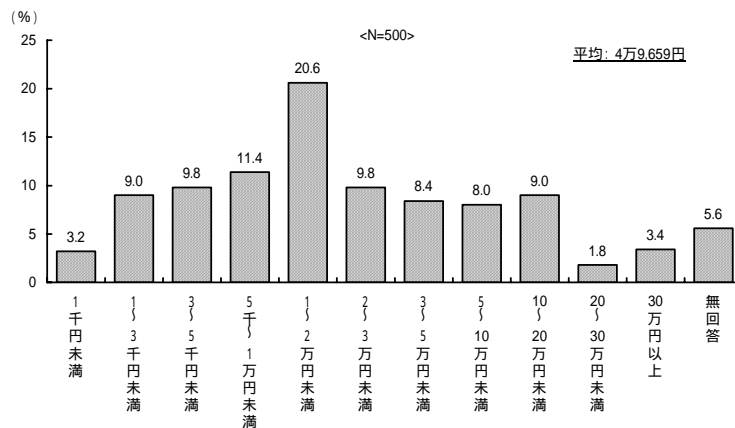
年代別に見ると、20代 40代 で最も多いのが「エステ」(24.0%、24.8%)で2割強を占めているのに対して、30代 は「ランチ」(22.4%)が最も多くなっています。また、50代 は「エステ」(18.4%)と「旅行」(16.8%)が上位を占めています。

主婦は「ゆったりとした時間」が最高の“プチ贅沢”と考えているようです。

さらに、その“主婦のささやかな贅沢”にいくらくらいのお金をかけたいのか、金額についてもあわせて伺いました。「1～2万円未満」(20.6%)が約2割と最も多く、次いで「5千～1万円未満」(11.4%)、「3～5千円未満」「2～3万円未満」(各 9.8%)となっています。

“プチ贅沢”の平均金額は、4万9,659円です。

“プチ贅沢”にいくらくらいお金をかけたいか



年代	1千円未満	1～3千円未満	3～5千円未満	5千～1万円未満	1～2万円未満	2～3万円未満	3～5万円未満	5～10万円未満	10～20万円未満	20～30万円未満	30万円以上	無回答
20代 <n=125>	4.8	12.8	8.0	12.8	24.8	10.4	8.8	5.6	4.8	-	2.4	4.8
30代 <n=125>	2.4	11.2	13.6	9.6	23.2	6.4	6.4	10.4	9.6	2.4	0.8	4.0
40代 <n=125>	4.8	9.6	7.2	14.4	16.0	12.0	8.0	4.8	11.2	1.6	1.6	8.8
50代 <n=125>	0.8	2.4	10.4	8.8	18.4	10.4	10.4	11.2	10.4	3.2	8.8	4.8

“主婦のささやかな贅沢”トップ10

順位	項目	(%)
1	エステ	21.6
2	ランチ	15.8
3	旅行	9.6
4	外食	5.6
〃	マッサージ	5.6
6	ケーキ・スイーツ	4.4
7	洋服の購入	3.8
8	ショッピング	3.4
9	おいしいものを食べる	3.2
10	宝飾品の購入	2.4

家計の実態

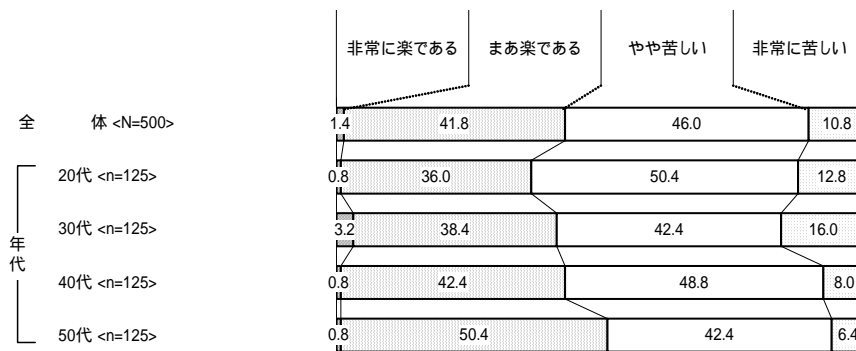
“苦しい”(56.8%)が半数強を超え、“楽である”(43.2%)を上回る。

家計をやりくりしている主婦に現在の家計を苦しいと感じているどうか、サラリーマン世帯の家計の現状について伺いました。

「非常に苦しい」(10.8%)、「やや苦しい」(46.0%)をあわせると“苦しい”(56.8%)が半数強を占めています。その一方で、「まあ楽である」(41.8%)が約4割を占めるものの、「非常に楽である」(1.4%)はごくわずかしくなく、両者をあわせた“楽である”(43.2%)は半数を下回っています。

定率減税の廃止や原油価格高騰の影響による物価上昇などが家計を圧迫しているのか、今後の家計の見通しに関する質問でも、“厳しくなっていくと思う”(43.0%)と答えた人が約4割を超える結果となりました。

家計の実態



やってみたい資産運用・現在やっている資産運用

資産運用を“やってみたい”・“現在やっている”(50.2%)が、ほぼ半数。運用内容は、「株式」(35.2%)がもっとも多く、次いで「投資信託」(23.8%)、「外貨預金」(17.4%)と続く。

サラリーマン世帯の主婦はどのような資産運用をやりたいと思っているのか、やってみたい資産運用や現在やっている資産運用について伺いました。

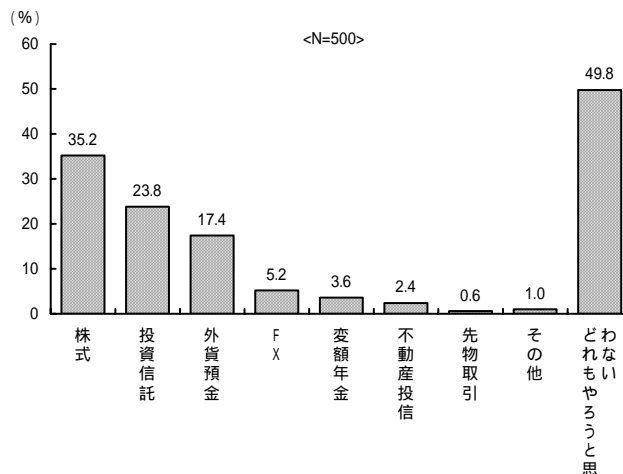
いずれかの資産運用を“やってみたい”・“現在やっている”が50.2%と半数を占め、「どれもやろうと思わない」(49.8%)と二分されています。

年代別では、50代(59.2%)が6割弱と最も多く、資産運用に対して意欲が高い年代と言えそうです。

やってみたい・現在やっている資産運用を具体的にみると、「株式」(35.2%)が最も多く、以下「投資信託」(23.8%)、「外貨預金」(17.4%)、「FX」(5.2%)と続いています。

自分の資産は自分でマネジメントするという機運が高まっているようです。

やってみたい資産運用や現在やっている資産運用【複数回答】



家計簿の現状

家計簿を「つけている」(50.4%)と「つけていない」(49.6%)が二分。
 家計簿を何につけているのかでは、「パソコン」(38.9%)が4割弱と最も多く、以下「既成の冊子」(33.3%)、「手作りの冊子(ノート等)」(26.6%)と続く。
 “冊子(ペーパー形式)”とパソコンなどの“デジタル機器”の割合を比べると、“冊子”(59.9%)が“デジタル機器”(39.7%)を上回る。

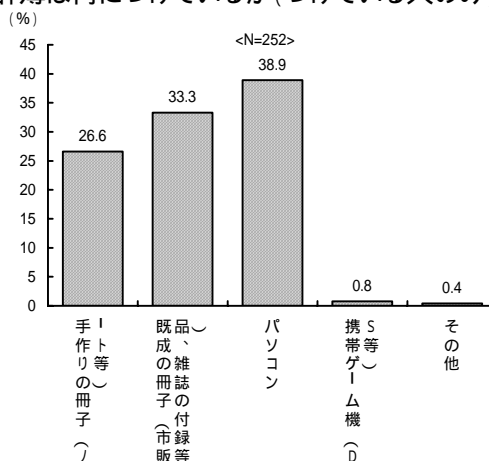
日頃から家計管理のために家計簿をつけているのか伺ったところ、「つけている」(50.4%)と「つけていない」(49.6%)ともにほぼ半数ずつとなっており二分されています。

年代別に見ると、若い世代の主婦ほど「つけている」が多く、20代 30代 では半数強が「つけている」(59.2%、52.0%)という結果になりました。

さらに、家計簿をどのようにつけているのかについても伺ったところ、最も多いのが「パソコン」(38.9%)で4割弱となり、以下「既成の冊子(市販品、付録等)」(33.3%)、「手作りの冊子(ノート等)」(26.6%)の順です。「携帯ゲーム機」(0.8%)はごくわずかという結果となり、普及はまだこれからと言えます。

また、“冊子(ペーパー形式)”とパソコンなどの“デジタル機器”の割合を比べると、“冊子”(59.9%)が“デジタル機器”(39.7%)を上回り、アナログ派がデジタル派より多い結果となりました。

家計簿は何につけているか(つけている人のみ)



年代	20代 <n=74>	30代 <n=65>	40代 <n=57>	50代 <n=56>
手作りの冊子	24.3	15.4	35.1	33.9
既成の冊子(市販品、付録等)	36.5	33.8	22.8	39.3
パソコン	39.2	47.7	40.4	26.8
携帯ゲーム機	-	1.5	1.8	-
その他	-	1.5	-	-

ふだん財布の中に入っているお金の額

「1万～1万5千円未満」(30.8%)が3割。平均は1万6,592円。

主婦がふだん(特別な時ではなく)お財布の中にくらぐらいお金を入れているのかを伺いました。

「1万～1万5千円未満」(30.8%)が最も多く、次いで「5千～1万円未満」(18.8%)、「3～5万円未満」(17.8%)、「2～3万円未満」(16.6%)が2割弱となっています。平均は1万6,592円です。

年代別から見た平均金額では、50代だけ2万円を超え、2万1,172円となっています。

電子マネーの普及やクレジットカードの利用増加などの影響からか、現金を持ち歩かない世代が増加していることが考えられます。

夫に内緒の資産(へそくり)と資産額

夫に内緒の資産を持つ主婦は 43.0%。へそくり平均金額は、245.0 万円。最高金額は 2,000 万円。

サラリーマン世帯の主婦は、夫に内緒にしている資産(へそくり、結婚するときを持ってきたお金、結婚後貯めたお金)をどれくらいの割合で、いくらくらい持っているのか伺いました。

「ある」(43.0%)と答えた人は約 4 割を超え、「ない」(57.0%)が半数を超える結果となりました。

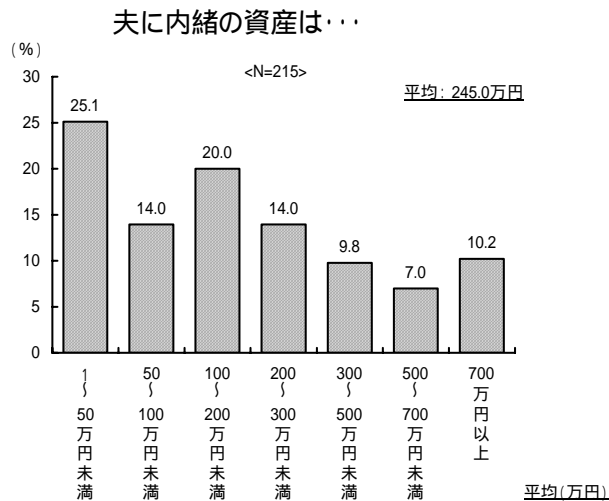
持っている資産額では、「1～50 万円未満」(25.1%)が最も多く、次いで「100～200 万円未満」(20.0%)、「50～100 万円未満」「200～300 万円未満」(各 14.0%)となっています。その一方で、「700 万円以上」(10.2%)も約 1 割を超えています。

また、住宅ローンの有無別に見ると、ローンがある人の平均金額は 179.5 万円ですが、ローンがない人の平均金額は 352.6 万円と、ほぼ 2 倍となっています。

平均金額は 245.0 万円、最高金額は 2,000 万円となっています。

今冬は、昨冬より主婦のへそくり所持率・平均金額ともに減少する結果となり、生活をやりくりするためにへそくりを切り崩しているという家庭が増加しているのかもしれませんが。

<参考> 2006 冬:内緒にしている資産が「ある」(49.0%)、夫に内緒にしている資産平均金額 306.3 万円



属性	20代 <n=51>	30代 <n=55>	40代 <n=54>	50代 <n=55>	1～50 万円未満	50～100 万円未満	100～200 万円未満	200～300 万円未満	300～500 万円未満	500～700 万円未満	700 万円以上	平均(万円)
年代	20代 <n=51>	30代 <n=55>	40代 <n=54>	50代 <n=55>	25.1	14.0	20.0	14.0	9.8	7.0	10.2	245.0
仕事の有無	正規有職 <n=37>	パート・アルバイト <n=55>	専業主婦 <n=123>		8.1	25.5	30.1	5.4	16.4	15.4	17.1	304.6
	28.6	22.0	18.0	6.0	22.0	16.0	10.0	6.0	22.0	352.6		
	20.4	14.8	30.1	15.4	17.1	12.2	8.1	8.9	8.1	217		
子供	いる <n=123>	いない <n=92>			30.9	17.4	26.1	11.4	17.4	15.4	10.9	252.8
	28.6	22.0	18.0	6.0	22.0	16.0	10.0	6.0	22.0	352.6		
ローン	ある <n=91>	ない <n=50>			28.6	22.0	18.0	6.0	22.0	16.0	10.0	179.5
	28.6	22.0	18.0	6.0	22.0	16.0	10.0	6.0	22.0	352.6		

夫に内緒の資産の目的

「いざという時の備え」(95 件)がトップ。一方で、「自分の趣味や楽しみのための費用」(44 件)など、“自分自身のため”という回答も多い。以下「老後の備え」(20 件)が続く。

資産を持っていると答えた主婦に、夫に内緒で資産を持つ最も大きな目的や理由について伺いました。最も多いのは「いざという時の備え」(95 件)で他を大きく上回っています。また、“自分自身のため”という内容も多く、「自分の趣味や楽しみのための費用」(44 件)、「離婚したときの備え」(8 件)、「自分の老後の蓄え」(6 件)、「自分の小遣い」(4 件)などがあげられています。

夫に働いてほしい年齢

「65～66 歳まで」(53.0%)が半数強を占め、次いで「60～62 歳まで」(23.4%)、「70～74 歳まで」(15.8%)と続く。夫に働いてほしい年齢の平均は、64.7 歳。

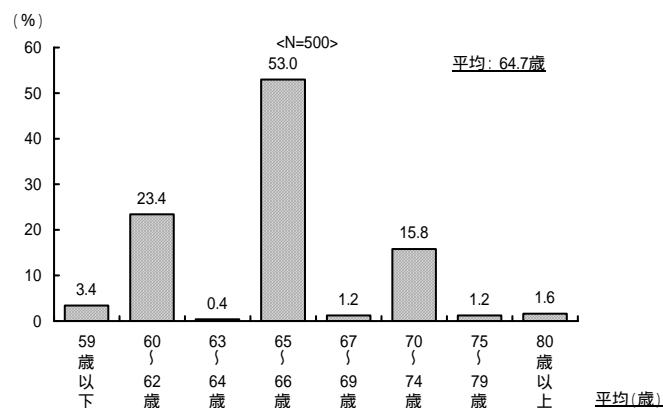
サラリーマン世帯の主婦は夫に何歳まで働いて欲しいと考えているのか、夫に働いて欲しいと思っている年齢について伺いました。

「65～66 歳まで」(53.0%)が最も多く、半数強を占めています。そのほか、「60～62 歳まで」(23.4%)が 2 割強、「70～74 歳まで」(15.8%)が 1 割強となっています。平均は 64.7 歳となっています。

年代別に見ると、20 代「63.6 歳まで」、30 代「63.5 歳まで」、40 代「65.5 歳まで」、50 代「66.2 歳まで」という結果です。

若い頃は早くリタイアさせてあげようと思っていたのに、年齢とともにもっと長く働いてほしいと考えていることが窺えます。

夫に働いてほしい年齢



年代	20代 <n=125>	30代 <n=125>	40代 <n=125>	50代 <n=125>	平均(歳)
20代 <n=125>	6.4	31.2	-	49.6	63.6
30代 <n=125>	4.8	33.6	0.8	44.8	63.5
40代 <n=125>	0.8	16.8	0.8	58.4	65.5
50代 <n=125>	1.6	12.0	-	59.2	66.2

次に、どうしてその年齢まで働いてほしいのか、その理由を自由にあげていただきました。

最も多いのが「会社の定年まで」(100 件)で、次いで「長く働いている方が元気でいられる、いきいきしている」(75 件)、「年金が支給されるまで」(61 件)の順となっています。また、「子供が大きくなるまで、独立するまで」(33 件)という回答も多く、この年代までと考えている人があげる理由は幅広く、千差万別です。

本件に関するお問い合わせ先

損保ジャパン DIY 生命保険株式会社
 パブリック・リレーションズチーム 担当:杉山・袴田・山田
 〒164-8685 東京都中野区中野 5-68-2
 TEL:03-5437-9029